

## 大移動をするヌー

アニマルフォトグラファー

トラベルライター

平 岩 雅 代

ヌーは東アフリカのケニアから、南アフリカの草原にかけて、広く分布するウシ科の動物です。“ヌー”という名前は、鳴き声が“ヌー、ヌー”と聞こえるところから付けられた、といわれていますが、草原で彼らの鳴き声を耳にしますと、まさにその通りなのに、驚かされます。

ヌーは外見が地味で、いつもうなだれたように下を向いているか、地面に額をこすりつけるように草を食べてばかりいるので、悪いことをして叱られた子どものようだ、という人や、仕事でくたびれ果てて、家路につくサラリーマンのようだ、という人もいます。

実際、生まれたばかりの赤ん坊は華奢な体つきとコーヒー牛乳のような淡い色が子どもらしさを示していますが、成長してツ



写真1 ヌーはいつも下を向いて草を食べている

ノとヒゲが生えますと、とたんに老け込んだように見えるのですから、不思議です。

ヌーが好んで食べるのは、イネ科の草ですが、同じ草をシマウマも食べています。

ところが、シマウマは草の先端を、そしてヌーは根から10cmくらいの下の方を食べるので、一緒に暮らしても問題ありません。

草原ではヌーの群れの中にシマウマが混ざっていたり、反対にシマウマの間にヌーが立っていることも少なくありませんが、実はこんな理由があったのです。

ところで毎年行われている有名なヌーの“大移動”(マイグレーション)は、ケニアのマサイマラと、タンザニアのセレンゲティの間で繰り広げられます。水と草を求めて、数十万頭ものヌーが長い隊列を作って進みます。途中、ライオンやハイエナなどの狩りによる死、川を渡る際の溺死、さらに病死などで、命を落とすヌーもかなりの数にのぼります。

ヌーは4月後半ごとから5月にかけてタンザニアのセレンゲティを出発、途中タンザニアとケニアの国境を流れる断崖絶壁の急流、マラリバーを渡り、ケニアのマサイマラを目指します。年によって多少は前後し

ますが、7月後半ごろから9月中旬ごろまではマサイマラに滞在、10月の声を聞く頃には、再びセレンゲティを目指して長い旅のスタートを切ります。

見渡す限りの大草原を、点々と黒いヌーの群れが埋め尽くし、蟻の大群か、胡麻塩をこぼしたかのように見え、圧巻です。夏はマサイマラ、春はセレンゲティと、ヌーの移動に合わせて、肉食獣の一部も旅をします。

ヌーの出産は、12月から翌年3月にかけてがピークで、地域ごとに集中して生まれます。生まれたばかりの赤ん坊は、わずか数分後には立ち上がろうとしてもがき、30分後には危なっかしい足どりながら、母親のあとについて歩き出します。“自分のことは自分で守る”が鉄則のアフリカでは、赤ん坊といえども甘えてはいられません。

大移動には子どもたちも参加しますが、大人にも苛酷な旅のこと、体力のない子どもにはつらい旅です。

ところでヌーの出産には忘れられない思い出があります。ケニアのアンボセリで、見通しの良いサバンナにうづくまるお腹の大きなヌーを見つけました。周囲には子連

れの母親ヌーが5頭、外を向いて立っていました。間もなく赤ん坊の脚が見え、体が出て産み落とされた赤ん坊の羊膜を母親がなめ、赤ん坊はよろけながら立ち上がろうとして転び、転んではまた立ち、見守る私たちも「あと少し、頑張って」と思わず声援を送っていました。

厳しいように思いますが、これも大自然の摂理なのでしょう。

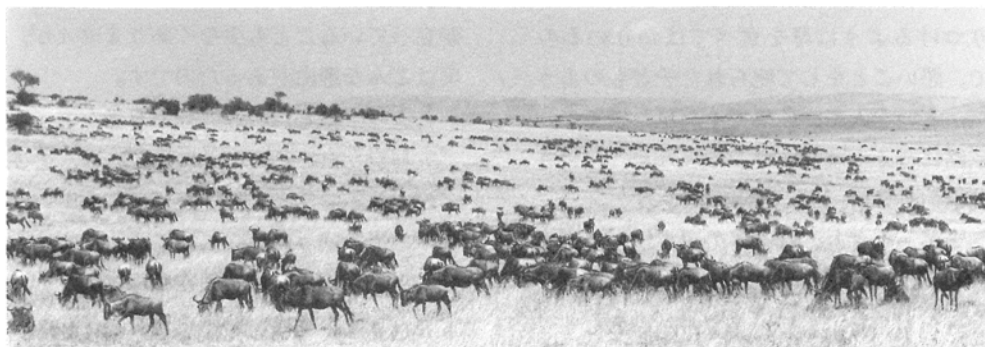


写真2 ケニアのマサイマラに集まったヌーの大移動

〈ヌーひとくちメモ〉

▲東アフリカ各国（ケニア、タンザニア、ウガンダなど）で話されている公用語のスワヒリ語で、ヌーは“ニユンブ”と呼ばれている。

▲野生のヌーの寿命は、約18年。生ま

れて2年ほどで成獣になる。妊娠期間は8カ月ほど。成獣の体重は150～250kg位。

▲ヌーは“ウイルデビースト”（Wildebeest）とも呼ばれるが、これはオランダ語。英語の“野獣”（Wild beast）とは違う。